



国際ロータリー第2530地区県中分区

## Intercity Meeting – 報告書

平成31年2月10日（日）

於： 迎賓館 辰巳屋 15:00～

### 第一部 「会員増強とクラブ改革」

○司会 船引 RC IM実行副委員長 宗像伸二

- 1 開会 船引 RC 国際奉仕委員長 佐久間好夫
- 2 開会点鐘 第2530地区ガバナー 平井義郎 様
- 3 国歌斉唱 ソングリーダー船引 RC 親睦活動副委員長 片吉慶吉
- 4 ロータリーソング「奉仕の理想」
- 5 船引 RC M 実行委員長挨拶（抄） 矢内好男

県中分区の多くのロータリアンの皆様をお迎えしてインターシティーミーティングを開催できますことを大変うれしく思います。平成年度の最後のインターシティーミーティングとなりましたが、記憶に残るインターシティーミーティングとなりましたら幸いです。



本日、平井ガバナーはじめ多数の来賓の方々をお迎えして開催できますことを大変うれしく思います。また、本日ご参加の県中分区の大内ガバナー補佐はじめ各クラブのロータリアンの皆さんには大変お世話になります。

本日は第一部としての研修内容は、地区から頂いておりますテーマに沿った研修セミナーを講師の先生の講話を含め、今までとは趣向を変えて、講師の箭内一典氏、アナウンサーの鈴木美伸氏、当クラブの橋本隆亮会員による鼎談を予定しております。どんなお話となるか楽しみであります。

そして第二部は別会場にて懇親会となります。心温まる料理と地元の金賞受賞の清酒「あぶくま」を用意いたしましたので、大いに飲んで食べて、多くのロータリアンとの懇談を通して、友情を深めて頂きたいと思います。

アトラクションとして、琴の演奏を用意いたしました。どうぞ、琴の調べをお楽しみください。

楽しい記憶に残るインターシティーミーティングとなりますことを祈念いたしまして私の挨拶に代えさせていただきます。本日は大変ありがとうございます。

## 6 ホストクラブ会長挨拶（抄）

船引 RC 会長 橋本 啓司

今回のインターシティーミーティングにつきましては、地区からの要望に応じて、鼎談形式で3人での話し合いを設定いたしました。なかなか難しい題目でありましたが、クラブ全員で協力し合い、力を出し合って成功に導きたいと思っております。



当クラブは田村市船引町にあり、通常田園都市としてとおっています。当会場の窓からは、町を代表する通称「田村富士」と呼ばれる片曾山がそびえ、その山の南側には町の守り神としてお人形様が県道「三春・小野町線」沿いに3体祀られています。

それでは、懇親会も予定されておりますので、楽しい一日となりますことをお願いも申し上げて挨拶に代えさせていただきます。

## 7 ガバナー挨拶（抄）

第 2530 地区ガバナー 平井義郎 様

今回のインターシティーミーティングにつきましては、船引 RC の橋本会長さん、矢内実行委員長さん、大内県中分区ガバナー補佐さんを中心に進められるということで、大変めでたく心よりお祝い申し上げます。

ここで少し紹介しますが、「ロータリーの友」2月号にRIのバリー・ラシン会長のことが載せられていましたので以下に紹介します。



『会員と知り合って、彼らが世界を変える行動人であることが見て取れました。地域を訪ねて、ロータリアンの奉仕活動の成果を見ることが出来ました。一方で、地域によって

は社交クラブと何ら変わらないロータリークラブもありました。そうであってはならないのです。しかし幸いなことに、どんなクラブでも再活性化できる簡単なアプローチがあります。「影響力が大きい奉仕プロジェクトを最低でも1つはやってみよう」。これが私から全てのロータリークラブへの挑戦状です。どのクラブにも、そうするだけの潜在力、リソースは備わっています。人々の生活を根底から変える力があるのです』という内容です。

いま置かれているロータリークラブで今年度、私がIMの共通テーマとして「会員増強とクラブ改革」を挙げさせていただいたのは、骨子・基本は少子化や高齢化と合わせて、ロータリーに対する考え方の変化があると考えています。このようなことについて、各クラブが寄り集まっているいろいろとお話し合っ、他のクラブの現状を取り上げて自分のクラブに持ち帰り、それをまた自分のクラブで生かしていただいて、改革につなげていくということ必要かと思っています。

また、箭内会員増強委員長の話にもあったかと思いますが、全国のロータリーの会員数が、12月末で1,224,000人ということで、ロータリーの会員数が全然伸びていない現状であります。入会数と同数が退会していくというなかで、今後のロータリーをどうしていくのかということが大きな問題となってきています。このような中で、「増強」ということがなければ、先の見通しが持てないことになってしまいます。

世代間のギャップというものが一つ出てきていると思います。公式訪問で回らせて頂いて、いくつかのクラブさんでは、世代交代が進んでおります。若い会員の方々が会長さんや幹事さんという要職を務められており、話を聞きますと3年目でSAAやまだ2年半なのですが委員会の委員長をやっているという方がいらっしゃる。ちょっと話をするとよくわからないままやっているということでした。世代交代はよいのですけれど、それでは、この後どうするのかということになってきます。

私の場合は、例えば地区大会やいろいろな会合へ参加するときに、バスや車で同乗して行ってきました。そのような場面で先輩ロータリアンやベテランロータリアンの方の指導を受けていたことです。最近はそのような機会が無くなってきていて、個別ばらばらに行くということが見受けられてきて、先輩ロータリアンの思いや考え、あるいはロータリーに

ついて勉強する機会が少なくなっているのではないかと感じます。

では、このような現状をどうするかということをご皆さんで考えていくことが大事であると思います。一方において、高齢化というもとに時期になったから退会しますという会員の方が結構出ておられて、この辺も何とか残っていただかないと、若い方々に対しての勉強というものが伝わっていかないのではないのかと思います。

このような現状の中で、いろいろクラブの中でお考えいただいて、よりよいクラブそして楽しいクラブを作っていくことが大事であると考えています。

地区の方でも考えていることがございまして、それがロータリー研究会というものです。アメリカ発祥で、草の根的に自主的に勉強しようという会です。三日間、三つのパートに分けてほぼ一日中勉強する会です。ロータリーに対する基本的な知識や考え方を勉強していこうというものです。日本においては、34地区中25地区で取り入れていこうという動きになっています。

2530地区においては佐久間ガバナーの時に取り入れ、今年度力を入れて立ち上げる方向で進んでいます。最初のパート1の会合が4月26、27日に行われる予定で進めております。自主的に自分たちで勉強してロータリーに対する正しい知識を研究していくことを通して、先ほど申しました世代間ギャップで埋められなかった部分を埋めていこうということで、是非多くの方々に参加して頂きたいと考えております。

IMについて、お話しします。1912年にサンフランシスコRCとオークランドRCが交流を深めたということですが、当時はゴールデンゲイトブリッジがなかったために船で行き来するしかなかった。このような中で、オークランドRCがサンフランシスコRCを訪問したところ、大歓迎を受けそれが非常に良かったということで、今度はお返しにサンフランシスコRCがオークランドRCを訪問し、これがまた素晴らしい会合となりお互いに親睦が深まったということで、国際ロータリーのプログラムに位置付けたという経緯があります。

その後続いていましたが、開催については地区の裁可にゆだねられまして、年度年度のガバナーがやるかやらないかを定める形となりました。最初に名称が変わったのは2005

年の小野パストガバナーのときに、「学友会」という名称で開催されました。その次の牧年度でも同様に名称を変えて開催してきたのですが、そのあと I M という名称が使われてきました。

I M については、いろいろ討議したり話し合ったりして、結論（決議）は求められないということになっております。いろいろ話し合いをすることと同時に最大の目的としては親睦を増すことにあります。この親睦を大切に多くの方の皆さんと一堂に会して、いろいろとお話をし合って、得る物があれば持ち帰るということになりますので、今日一日皆さんお話をし合って、知識を得て、楽しんでいただければと思っています。

後半戦、大懇親会が予定されているということでもありますので楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

## 8 ガバナーエレクト候補 第 2530 地区ガバナーエレクト 芳賀 裕 様

先月、1月12日～21日まで、アメリカのサンディエゴで国際協議会というガバナーになるための最終関門である研修会に参加してまいりました。一週間、ホテルに缶詰めの状態で研修を受けてまいりました。

詳しいことにつきましては、来週の地区研修セミナーで、3月の会長エレクトセミナーや5月の地区研修協議会で皆様方にいろいろとお話ししたいと考えております。

サンディエゴは気温が20度にもなっておりますが、帰国してこちらは零度で凍えるような寒さであります。体調は万全でございますので、皆様方と一緒に来年度は楽しいロータリー活動が出来ますよう準備をしていきたいと考えております。

本日のインターシティーミーティングは新しい知識を得るとともにリフレッシュの機会にもなるかと思っておりますので、是非一緒に勉強させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



## 8 出席者紹介

県中分区幹事

渡邊宏二 様

## 9 「会員増強とクラブ改革」



### (1)「私がロータリーに入会した動機」 橋本隆亮 氏

(船引 RC)

初めに自己紹介を兼ねまして、入会のきっかけをお話しします。平成28年9月に船引RCに入会させていただきました。それに先立ち、平成24年12月に弁護士登録をしました。同時に郡山市内の法律事務所に勤務しまして、そこで3年4カ月間修行を重ねました。平成28年5月に船引町に開業しまして、ほぼ同時に船引RCの先輩会員からお声がけを頂き、その後入会させていただきました。

入会のきっかけは先輩からの勧誘でありましたが、その先輩は幼少のころから世話になっていた先輩であり、また現在所属している別の業種団体のOBということもありました。

入会のきっかけとしてもう一つの大きな理由が、修業時代の恩師の弁護士が郡山市のRCに所属しており、そこで長年活動・活躍されておりました、熱心に活動している姿を拝見したということも入会の動機になっております。正直なところ、RCに所属して 実際にどのような活動をしているかということについては詳しくわからず、なんとなく奉仕団体なんだろうという漠然としたイメージしか持ち合わせていなかったです。ただ、その先輩を訪ねてくる客がロータリーの会員であったり、ロータリーの方の紹介で訪ねてくる方であったりと多くを目の当たりにしていたので、なんとなくではありますが、ロータリーに入ることによって仕事にも多少なりとも有益なことがあるのではないのかというイメージや期待感があったことも確かであります。

このような、いきさつがありまして先輩会員の誘いを自然にお受けして船引RCに入会したわけですが、入会して初めに感じたことは、会員の業種の多様さと年齢層が幅広いということであります。船引ロータリークラブには40数名の会員の方がいらっしゃいまして、当然のことながら会員それぞれが別々の仕事をされておりました、

そういう中で昼の例会や夜の懇親会、定期的実施されるいろいろなイベント等々に参加させていただき、様々な分野の職業の方々からいろいろなお話を伺うことが出来ました。あるいは長く地元にお住まいの先輩から、地域の歴史や文化、更には最新の情報についてお話を伺うことが出来ました。また、入会して間もなく先輩会員からお仕事の紹介を頂くことが出来ました。また、会員卓話として、「法律セミナー」の話をさせて頂く機会もありました。

他方で、私が仕事に困ったときに助けて頂いたことが少なからずございます。生まれ育った地元での開業であります。高校卒業して以来優に10年以上地元を離れていた私にとりまして、このようなぬくもりのある人的なネットワークという広がり是非常に貴重なものであって何物にも代えがたいものであると思っております。

ロータリークラブに入会して日も浅く、学ぶべきことが多い若輩者ではありますがけれども、ロータリークラブでの出会いを大切に、これからも常に感謝を忘れずに、誠実さを失わず、仕事に邁進しつつ会員相互の交流と親睦を深めていきたいと考えております。以上で私の話を終わらせていただきます。

## (2) 「地区会員増強・拡大委員長講話」 (抄)

箭内一典 氏 (福島中央 RC)

資料 「R I 2530 地区の会員増強について (現状と課題)」に基づいての講話

### 1 2530 地区の会員数、クラブ数の推移

○2019年1月末で、55名の会員増の現状、今後、6月の退会者防止が大切である。

- 2 全国34地区で、人口1万人当たりのロータリアン数では、2530地区は全国3位  
山形県は全国2位で、入会動機心得として、「真のロータリアンになれる人を勧誘」している。県内で見ると、人口1万人当たり14.5人で、  
県中分区がトップである。県中分区の会員数はここ数年、  
150人前後で推移している。

### 3 会員の高齢化と会の小規模化が進んでいる。(2530地区)

○高齢化によって、活力が低下する恐れがある。



○1983年、20人以下のクラブは1つであったが、現在は全体の1/4である。

○1クラブの会員数は約55人→35人に減少

#### 4 女性会員について

○若い会員、女性会員を増やさないと、10、20年後は有効な活動が困難になる？

○女性会員数では日本は最下位で6.6%、2530地区は6.7%、県中分区は6.5%である。

#### 5 今後の見通しについて

○ベテラン会員にも役を分担して頂いて、引き続きクラブで活躍して頂けるような組織にすることが老壮青のバランスをとることになる。

○女性会員に入会してもらおうこと。しかし、皆さん忙しかったり、例会への参加や会費の面で負担だったり、二の足を踏む場合が多いと感じている。

クラブに女性会員がいる場合は、思い切って増強委員や委員長になっていただけてみてはどうでしょうか。また、地区内には女性会員の入会を認めていないクラブがあることは残念です。

#### 6 退会防止に力を入れる

○「負の広報マン」をつくらないこと

- ・不満をもって退会した会員は負の広報マンになる場合が多いと言われている。
- ・クラブに不満がある場合は、他方で人手不足や不景気等が要因で退会していきやすいように思われる。退会者を少なくするにはクラブ戦略が必要である。
- ・入会者を増やしても、退会者が多ければ穴の空いた器に水を注ぐようなものです。負の広報マンを作り出さないためには、どこに穴があるかを探る必要がある。

#### 7 3年未満の会員へのセミナー実施

3年未満の会員の退会の割合が多い現状

- ・「ロータリーに対して熱意を持ち、ロータリーの魅力を知るにはロータリーを深く理解することから始まる」と田中作次氏は話されている。
- ・新会員のセレモニーを行う。本当の歓迎の気持ちを表しましょう。



また、ロータリーの本当の楽しみを理解しないままに退会してしまうことのないように新会員や若い会員がクラブの所属感を感じるよう、先輩会員が隣に座り、親しく声をかけましょう。また、逆に新会員に一年以内に友人の推薦をお願いするのも若い会員の増強にも有効であるとも、田中氏は述べています。

また、地区内にはクラブと他の青年団体とスポーツ交流会の実施を行い、その後例会に招待して、それ相当の実績を上げているクラブもごさいます。

#### 8 和やかで、派閥のないクラブ作り

- ・派閥のない風通しの良いクラブ、みんなが誰とでも話の出来る雰囲気を作る。一番大切なことであると思います。是非クラブ会長さんには最大限のご尽力をお願いします。

#### 9 会員の配偶者にも参加してもらう

- ・ロータリーの活動への参加は時には家族と過ごす時間を減らしてしまう可能性もあります。したがって会員の家族の参加の例会や行事を開催し、ロータリーについてよく知ってもらい、会員の実務や根底について理解してもらうことも重要だと思ひます。
- ・船引RCさんでは奥様同士の旅行を実施していると聞いています。素晴らしいことであると思ひます。

#### 10 例会に出たいプログラム

- ・それには反省点を書いておきなさいということでした。すべてのクラブ活動の反省会を開く。やりっぱなしにしない。田中氏はクラブ例会のマンネリ化を防ぎ、有意義な時間とするために常に創造的な例会の開催を図るべきであると述べています。

そのためには、反省点や気づいた点をノートに書き留めておくことが大切であると述べておられました。また、実施した行事の後の反省会の開催も大変重要です。

#### 11 金のかからないクラブ運営

- ・催しや講演では高いものは呼ばない。場合によっては入会金・年会費や会場費と運営費の見直しも必要である。会費の見直しも必要である。田中氏は従来より安い会費にできないか、委員会の持ち方の工夫、会場の変更や食事代の検討などすべきだという

ことを述べています。

また、40歳未満の会員の会費や年金生活となった高齢化の会員の会費を半額とか三分の二にすることを検討してみてもどうかということも提案していました。

この時点で、すでに元R I会長の田中氏は柔軟性のあるクラブ運営を提案されていました。

(3) 「鼎談」 箭内一典 氏 (福島中央 RC) 橋本隆亮 氏 (船引 RC)  
アナウンサー 鈴木美伸 氏

鈴木：本日、驚いたことは30代の方がロータリークラブにいたのかということですか。

橋本さんが、一番若いくらいでしょうか。

橋本：一番ではなく、あそこでカメラをやっている方で、同じく30代です。

鈴木：橋本さんの入会は何歳ですか。

橋本：32歳の時です。

鈴木：ちなみに箭内さんが最初にロータリークラブに入会されたのは何歳ですか。

箭内：私は38歳で入会しました。入会して25年になります。今は64歳です。

鈴木：なかなか会員が増えないというお話でしたが、箭内さんは一番の原因は何であるとお考えですか。

箭内：会員増強には皆さん、一生懸命やったださっているのですが、クラブ会員の高齢化がありまして、昨年亡くなった方が22名いらっしゃいます。それと同時にクラブ訪問をして話を聞きますと、高齢者の方が相次いで退会される現状

です。以前は退会者が年間185名で、入会者が210名位でしたが、ここ2年間は退会者が220名となり、入会者を上回っている。

鈴木：ということは、新しく入る入会者の方を増やしていかなければなら



ないと思うのですが、そんな中、橋本さんの先ほどの「入会した動機」の話に先輩方からいろいろな話を聞けることがためになるということがありました。言いつらいかもしれませんが、入会してちょっとここきつということはありませんか。

橋本：昼の仕事が主であるため、昼の例会に出席するのは難しいと思います。

鈴木：おそらく社長さんが多いので、時間が自由になる方が多いのかなと思います。

しかし、まだまだ現場で実務を取らなくてはいけない会員は例会への出席は難しいというところですが、箭内さんいかがでしょうか。

箭内：白河西RCというところがあるのですが、会員が青年会議所のOBが多く入会されており、40歳代の時は出席については無理をしなくともよい。仕事を一生懸命やりなさいということで、出席は義務なのですが、そのところは大目に見るということでした。

鈴木：そのへんのところをちょっと緩くするというのも必要なのでしょうか。

箭内：私も38歳で入会したので、10年間は例会に出席するのは月に1回程度でありました。例会は月に4回なのですが、10年間過ぎましたら理事になってみないかということで、48歳ですね。そのあたりからロータリーが面白くなってきました。ロータリーとはこんなことをやっているのかということが分かってきたのでした。10年かかったわけですから、長い目で見ること必要だし、大事だと思います。

鈴木：先ほどの箭内さんのお話の中で、女性会員が少ない、特に日本ではそうであるという話が合ったのですが、今日もほぼ男性で占められている会場ですが、もし私がロータリークラブに入りませんかとどなたかに誘われたとしたら、ロータリークラブとは何をやっているというふうに思わず出てしまうと思います。そこで、橋本さんはロータリーに入る前に、どのようなイメージを持っていましたか。

橋本：先ほどの講話にもありましたが、漠然と奉仕団体なのかなあ、ボランティア的な活動を行っているのかなあというイメージしかありませんでした。

鈴木：そうですね。私の場合は、仕事の都合でロータリークラブのお手伝いをさせて頂くことがあるので、中の様子を知ることがあるのですが、そうでない限りは、ロータリークラブとは一体何をやっているのだろうと思うことが一般的なイメージであると思います。さらに言えば、偉い人たちが集まって何かやっているんだよねということぐらいだと思います。そこに女性が誘われてもなかなか厳しいかなあとと思います。

社長さんたちの中に入ってどうすればいいのと、まず女性は感じてしまいます。そこを考えると、こういうことをしているのだよという情報をどんどん発信していくということも必要と感ずますが、情報発信という意味ではどういう形で何かなされているのか、箭内さんお願いします。

箭内：難しいですね。どういうことをやればよいのかですね。

鈴木：橋本さんの場合、ロータリークラブに関として、こんなことをしているというというということを他の方に伝えるのに何かありますが。

橋本：若いメンバー確保という意味では、SNS を使って発信すべきなのかと思ひます。発信の仕方も写真を載せただけでは何をやっているのかがわかりにくいので、具体的にこのようなことがありましたという説明も加えてわかりやすく発信すべきなのか思ひます。

箭内：ロータリーとしては、公共イメージの向上ということで大いにそのような発信をなささいということは言われていますが、若い人が行っている SNS やフェイスブックの活用もありますが、現在そこまでいっていないと思ひます。

鈴木：会場にいる皆さんの中で、個人的にフェイスブックをやっているという方はどれくらいいらっしゃいますか。また、会社でフェイスブックを立ち上げているよ、アカウントがあるよという方はどれくらいいらっしゃいますか。  
なるほど。今のご覧になって橋本さん、いかがですか。

橋本：フェイスブックを知ることで…。難しいなあと思ひます。

鈴木：SNS やフェイスブックという言葉だけ出ただけで瞬間に、出来ない、もうわか

らないと言ってしまう方が非常に多いですね。フェイスブックはどんな方でもそんなに難しいことではないので、できると思うのですが、箭内さんも個人的にやっていますか。



箭内：やっています。それと私はク

ラブの公共イメージ委員長なので年度初めにはクラブのフェイスブックを充実させるということだったのですが、いろいろやっているうちに個人情報からみて、この人の写真を出していいのかなということがなかなか難しいと思ひまして、二の足を踏んでおります。

鈴木：写真など無許可で投稿しまうと問題がありますね。弁護士の橋本さんはそのあたり、どうお考えですか。

橋本：肖像権の問題が出てくると思ひますが、私の所属している別の団体では写真を撮って、こちらをフェイスブックにアップさせて頂きまして話しております。顔を載せないでくださいという場合はそれなりに対応しています。

鈴木：そうですね。そのような事前の対策を取ることはできると思ひます。なぜ、フェイスブックを取り上げたのかといひますと、ラジオやテレビの仕事をして頂いていゝなかで、今テレビで紹介している情報といひものはフェイスブック等からもらう情報といひものがすごく多いのです。

すべてがそうだといひませんが、テレビにしてもラジオにしてもフェイスブックだったり、インスタ、ツイッターだったりをしてワークチェックして、そこで今どういひ動きになっているのか、何が人気があるのか、どういひところが話題になっているのかといひことをチェックするのです。それをそのまま情報としてテレビ・ラジオに流すといひことはないのですが、それが一つのきっかけとなっているといひことはあるのです。

フェイスブックは早いんですね。情報が早くて、今やテレビやラジオはかなわない。ネットの情報の速さにはかなわない。そのため意外とそこからブームや人気になっていることがすごく多いので、フェイスブックを取り入れるというのは一つの方法なのかなと思います。実は、今回の話を頂きまして船引ロータリークラブさんのフェイスブックをチェックさせていただきました。橋本さんは意外とまめに投稿されているという印象を受けましたが、どうでしょう。

橋本：イベントがある度に更新しているのですが、もう少しこういうイベントであったという説明をしたり、他の人が見たときにわかりやすい説明書きがあったりすればなおいいのではないかなと思っています。



鈴木：そうですね。フェイスブックは絵日記になりがちなのですね。今日、このような集まりがありました。今日の会合ではこのようなお弁当が出ました。という

ふうに終わってしまう時があるのですが、そこでプラスアルファとして、そこから何を伝えたいかと一歩足を踏み入ると伝わるものがあるのかなあという 気がします。

そこで、もう一つ会場の皆さんに考えてほしいことがあるのですが、ロータリークラブに入ろうよと勧誘して、入ったら何かいいことあるのと聞かれたとき、皆さんは何をその人に伝えますか。ロータリークラブに入ったらどうなるの、いいことあるのと問われ、どう答えるのか。箭内さん、お願いします。

箭内：一番いいのは会社が儲かるよ。異種業交流が出来るということは、商売を営んでいる方にとっては魅力ではないのかなと思います。奉仕活動などが出来るよと話しても、これは大切なことなのですがあまりピンとこないのではないかなと思います。

鈴木：橋本さんは何かいいことあるのと聞かれたとき、どう答えますか。

橋本：ネットワークが広がるということは非常にありがたいことだと思います。仕事柄、いろいろな方から御相談を頂くのですが、ネットワークが広がれば広がる

ほどいらっしゃるお客さんの幅も広がっていきますし、仕事に直結する部分もあるので、そこが一番魅力かなあと考えています。

鈴木：フェイスブック等の話は先ほどしましたが、一人一人がロータリークラブに対して何を思っているのかということ伝えていくことは大事なことでと思います。誘われた方にしてみれば、よくわからないところに入ったらどうなるのだろうかという所に思いが伝わっていけば、心が動くと思うし、入ってみようという興味も沸くのではないのかと思います。ただ、こういうことをした、あのようことをしただけでは弱いような気がします。一人一人がそういう思いを発信することということも大事かなあと思いました。

箭内さんは奉仕活動はそんなにと仰っていましたが、ロビーに沢山の新聞のコピーが貼られていて、いろいろな活動をされていらっしゃいますね。そういう活動をもっとどんどんアピールしてもよいのではないのかと思います。

時代が変わってきているからすごく感じるのですが、いいことをみんなでシェアしていこうという風潮が最近はあると思います。昔だったら、いい情報があったら、ほかの会社にはばらしてはいけないから、自分のところで秘密にしていこうという考え方が、最近の「フェイスブックのシェア」ということがあるのですが、あの流れを見ると、いいことはみんなで分け合っていこうよ。そのことで皆がもっと2倍も3倍も喜びを感じることが出来るという流れになってきていることをすごく感じているので、新聞に取り上げられていたあのよう記事をどんどんアピールしていくといいのではないのかと思いました。

そのような中で、かなりたくさんのお客さんがいた、入会させたというロータリークラブがあると伺っています。常葉ロータリークラブの管野会長さん、いらっしゃいますか。

管野：はい。沢山というわけではありませんが、少しはありました。

私が会長となって、目標として会員を5人増やそうという話を皆さんに申し上げました。会員の力添えもありまして、今のところ4名が新しい地域会員として活動しております。いま、先生方お話の通りでありまして、ロータリーに入

って何かいいことがあるのかという疑問も投げかけられたこともあります。

常葉ロータリークラブとして入会してもらうことに成功した順序を申し上げますと、まず会長名で各企業の社長さんあるいはそれなりの方々にお願いの文書を差し上げました。その内容をご披露しますと、去年の猛暑の中でした。常葉ロータリークラブへの加入の御勧めという標題であります。「猛暑の候、皆様には健康と体力維持と、それぞれの会社の経営拡大のために、日夜頑張っておられまして心からの敬意と感謝を申し上げます。さて、標記の件ですが、当クラブでは先輩諸君の努力により1974年発足、今年で45周年を迎えることになりました。つきましては自分自身の自己研鑽と職業倫理を高め、今の社会の改善を目指すという観点から是非貴殿若しく後継者の加入をお勧めしたくこのような文書を配らせていただきました。近日中に担当者がお邪魔いたしますので何卒よろしくお願い致します。」という文書を差し上げました。

配布しました方々は13名でした。内女性は1名でした。中には訪問してみますと、ロータリーに入って何がいいのかなという疑問を投げかける方もおられました。ロータリークラブはお金持ちの集まりかい？と率直に言われたこともありました。それからロータリークラブは暇のある人が参加するのだよね。そんなことも言われました。そこで、ロータリークラブの一から説明してきたわけですが、良い点はやはり「親睦と奉仕」で、これらを重点的にお話してまいりました。ロータリクラブに理解を示している方は、加入をさせるのであれば息子を加入させたいと考えているが、まだ二十歳そこそこなためにまだ早いという方もいらっしゃいました。それから、加入はしたいのだが、今は教育盛りなのであと1、2年待つてほしいという方もいらっしゃいました。それから、加入はしたいのだが、別の役職を持っているので、今のところ精一杯であるため、それが一段落したら加入しましょうという事前の約束をしてくれた方もいらっしゃいます。

私なりにロータリークラブの良いと感じている点を申しますと、社会的な地



位の向上はもちろんですが、全国いや世界に通じるお話を申し上げます。実はこのあいだ私はギリシャの方に旅行してきました。羽田空港に行きましたら、羽田空港の出入口にロータリーのマークがありました。「歓迎します」という横断幕でした。あれを見ても、ロータリークラブの影響力があることを感じてきました。今回、4名の方に加入をしてもらったわけですが、他の方々にも継続して加入を勧めていきたいと思ひますし、今後目標たる5名に何とか近づきたいと考えております。以上のような経過で進んでおります。

鈴木：ありがとうございました。今の話をお聞きになって、箭内さんどうでしょうか。

箭内：会長の熱意が会員増強に結びついたということで、会長が増強の必要性を強く進めていくということはすごく重要なことだと思います。

鈴木：思ひを伝えていくということの大切さと、加入した後でその方にとってどのような幸せが待っているかというところや、一人一人がロータリーの魅力というものを常に意識していくというところもすごく大事なかなあと思ひました。

橋本さんは加入して2年少しというところなのですが、会員増強ということに関してはどうのように感じておられますか。

橋本：私は入って間もないので、自ら会員増強をしようという具体的な動きは全くしていないのですが、今は入っている業種団体のなかで、将来的ロータリーに入ったらいいのではないかと思ひているメンバーがいるので、タイミングを見て直接お声掛けをしたいと考えています。ロータリーの魅力面等を伝えて、説得できればと思ひています。

鈴木：ロータリークラブに入りたいと思ひてもらいことがすごく大切であると思ひのですが、箭内さんその辺りいかがでしょうか。ロータリアンになりたい、入りたいたいと思ひさせるために必要なこととは何でしょうか。

箭内：会員がなぜ、ロータリーを続けるかというアンケートを、ロータリー100周年を記念して全国のアンケートを実施しました。あなたがロータリーを続ける理由として、一番が70.7%で、異業種間の交流が出来るでした。次に生涯の友

人や仲間が出来るということ。それに自己研鑽と成長の機会が与えられるということでした。また、4番目として例会が楽しい、奉仕活動が出来る。その他、ビジネスに活用できるということでした。やはり自分が感じていることを率直に会員同士に伝えて、訴えていくことは説得力があり、良いことだと思いますので、



その点でまず今後増強につなげて行ってほしいと思います。

鈴木：ありがとうございます。そうですね。ネガティブなことというか、マイナス的なことを伝えるというよりは当然ポジティブなことを伝えること、こういう所が良いよ、ということを地道に伝えていくことが必要であると思います。

私は仕事柄、いろいろなお店におじゃまして、いろいろなところを見てきて思うことがあるのですが、ここ数年特にそうなのですが、結局生き残っているお店は中味だなあとすごく感じています。少し前、5～6年、もうちょっと前までは店の外側がおしゃれだとか、きれいとか華やかだとかという所があればお客さんは、どんどん入っていたのですが、最近ではそのようなお店があつという間につぶれていってしまいます。逆に残っているというお店は商品に自信を持っている、本当にいいものを提供しているというお店というのは、外側が地味でも行列のできるお店になっていることがすごく多いです。ソースカツ丼だけで行列を作るとか、結構山間部にある地元の野菜だけを扱って、ちまちまやっているお店に遠くから何時間もかけてお客さんが足を運んでいる。それって何かといえば中味がちゃんとしているから、魅力的だからということで人気になっているのだと思います。

ロータリークラブさんでいえば、商品といえば会員の皆さん一人一人であると思うのですが、そこが魅力的であるということがすごく大事なことであると思います。皆さんがロータリークラブに魅力を感じている、やりがいを感じているということがすごく大事であるのかなあと感じます。是非、それらを発信して沢山のの人に伝えていければ、それを見た人が一人二人とは入ってくれるのかなあとと思います。限られた時間なので、そろそろといたしたいと思います。

皆さん、どうもお疲れさまでございました。大変すばらしいお話をお聞かせいただきましてありがとうございました。私は紹介いただきました三春ロータリークラブ所属、パストガバナーの佐久間英一と申します。大変僭越ではございますが、ご指名ですので講評の述べさせていただきます。日頃より皆様には陰に陽にとお世話になっておりますことをこの場をお借りいたしまして衷心より御礼申し上げます。



まず、大内県中分区ガバナー補佐様、平井国際ロータリー2530地区ガバナー様、芳賀ガバナーエレクト様、ホストクラブの橋本船引ロータリークラブ会長様、実行委員長の矢内会長様、そして会員の皆様、関係者の皆様、足元の悪い中ミーティングにご参加いただきましたありがとうございました。見事素晴らしいミーティングが開催されましたこと、お互いにおめでとうと言いたいと思います。

箭内地区会員増強・拡大委員長につきましては、地区の現況と課題、そしてこれらを詳しく説明して頂き、私たちも新たな発見があったように感じます。とにかく微に入り細に入り、わかりやすく御講演して頂きありがとうございました。県中分区の素晴らしい点をいろいろあげて頂きまして、本当に良かったと思っております。

また、船引ロータリークラブの橋本隆亮様につきましては、初々しい中で、入会について様々な葛藤の中にも、いろいろなことを考えながら取り組んでいる姿を今後生かしてください。私などは古い会員でありますけれども、私の入会当時のことなど思い浮かべて聞かせていただきました。

ポールハリス氏とは同じ職業であり、船引からポールハリスにつながる素晴らしいロータリアンが出てくるのではないかと期待しておりますので、どうぞ頑張ってくださいと思っております。

鼎談につきましては、鈴木美伸様の軽快なタッチで鋭く聞き出す対応はさすがであると聞き入っております、私もインターネットやフェイスブックについていろいろわからない点が多いので、困ったものだなあと自分自身が言われているような気がしまして、何とか頑張ってみたいという気持ちでおります。

会員増強につきまして、常葉ロータリークラブの入会の実績とそのポイントにつきましてはお話し頂き、本当に宝物を皆さんにお見せするようで、本当に感激しました。ありがとうございました。

この場をお借りしまして、今日のためのプリントを紹介します。

『素晴らしい「インターシティーミーティング」の開催を祝して』という別紙であります。(当日配布資料)

このなかで、1.2.3については、読んでいただければお分かり頂けると思います。そこでですが、県中分区は非常に弱小クラブといいますか、小さいクラブが多い現況という現況を知って頂いて、私の考えを述べさせていただければ、今いろんなところで話題になっている衛星クラブについてまとめてみたものです。

《配布プリントより、衛星クラブについての説明と県中分区におけるその効用についてお話がありました。》

最後に、今後ますます素晴らしい県中分区となりますことを願って講評に代えさせて頂きたいと思います。

本日は本当にありがとうございました。

## 11 謝辞と記念品贈呈 県中分区ガバナー補佐 大内富雄 氏

本日、2530地区の会員増強・拡大委員長の箭内様に講師をお願いいたしましたところ、御都合のある中、我々県中分区会員のために御指導賜り誠にありがとうございました。



お陰様でクラブが抱える会員増強の課題を見極める力を頂いたような気がいたします。また、船引ロータリークラブの橋本隆亮会員さんには、「私がロータリーに入会した動機」と題して実感のこもった体験談を話され、この思いが今後のロータリー活動に役立っていくことと信じております。

また、鈴木アナウンサー様の進行により意義のある鼎談が展開されました。そして、佐久間英一パストガバナーからはよりよい講評を頂くことが出来ました。

お陰様で、県中分区のインターシティーミーティングが大正解のうちに締めくくる

ことが出来ました。皆様の御協力に感謝を申し上げ、はなはだ粗辞ではありますが謝辞といたします。ありがとうございました。

○記念品贈呈



12 閉会 船引 RC 社会奉仕委員長 箭内和夫

13 閉会点鐘 第 2530 地区ガバナー 平井義郎 様

皆様、お疲れさまで御座いました。閉会点鐘の前に一言だけお話させて頂きたいと思えます。IMですか、中央分区、県北第一分区、県南分区、そして今日の県中分区と4つ終わりました。いずれも「会員増強とクラブ改革」という流れの中で各クラブさん非常に努力されていて、先程の常葉ロータリークラブさんが実例をもって紹介されましたが、その手法等につきしては共有できるようなものがあります。今考えていますのは、このIMの報告書について、各分区のそれぞれの報告書を交換し合ってご覧になって頂くということを考えています。

それから箭内増強委員長の話にも出てきましたが、いろいろな情報というものがありますので、それらを含めて会員増強についての実例ということでこのことも各クラブさんの方に伝えていきたいと思っています。

また、常葉ロータリークラブさんにつきましては、今日は突然でありましたが紹介を頂きました。このようなことを実践してきたということをおまとめ頂いて、このようなことをやってきたということについて、ほかの皆さんに参考になるような

ものを作っていけば、それをご覧になって、また各クラブで新たな展開が期待できると考えていますので、是非実現したいと考えていますのでよろしくお願いします。

本日は長時間にわたり、有り難うございました。第一部ということで閉会します。

## 第二部 「懇親会」

○司会 船引 RC 青少年交換委員長 柳沼 実

1 開会 船引 RC 会員増強・ロータリー情報副委員長 管野正明



2 主催者挨拶  
県中分区ガバナー補佐 大内富雄 様

3 アトラクション1  
三浦久美子 様  
琴演奏 「六段の調」

4 来賓紹  
船引 RC 会長 橋本啓司

5 乾杯  
パストガバナー  
牧 公介 様



6 アトラクション2  
琴演奏

「花は咲く」 「ふるさと」  
「少年時代」 「未来へ」







- |    |                        |              |        |
|----|------------------------|--------------|--------|
| 7  | 次期開催クラブ発表              | 県中分区ガバナー補佐   | 大内富雄 様 |
| 8  | 次期開催クラブ挨拶              | 常葉 RC 会長エレクト | 先崎文雄   |
| 9  | 次期県中分区ガバナー補佐及び次期分区幹事紹介 | 県中分区幹事       | 渡邊宏二様  |
| 10 | 次期県中分区ガバナー補佐挨拶         | 船引 RC        | 白岩 薫   |
| 11 | 手に手つないで                | ソングリーダー船引 RC | 片吉慶吉   |
| 12 | 閉会                     | 次期県中分区ガバナー補佐 | 白岩 薫   |